

雜 錄

支那特産の木本科

小 泉 源 一

木本植物科中、支那特産のも二三あり、水青科 (Tetracentraceae)、杜仲科 (Eucommiaceae)、秦樹科 (Chingithamnaceae)、Bretschneideriaceae、及び穗果樹科 (Rhoipteleaceae) 公孫樹科等之なり、此内、穗果樹科は 1932年 H. HANDEL-MAZETTI 氏の發見せるもので胡桃目と尋麻目との中間に立つ穗果樹目 (Rhoipteleales) を成すものと考へらる、今本科の性狀を記せば次の如し。

穗果樹科 (Rhoipteleaceae)

花は微小、両性花又は雄性花、左右相稱、單被花なり。花托は欠く。花被片は四枚、覆瓦様に排列す、離生、側花被片は内側にありて相對生し、前花被片、後花被片は外側にありて相對生す、倒卵狀円形にして褐色を呈し、乾膜質にして微細なる中脈を有す。永存性なり。雄蕊は六本、永存性、下位、前二本は前花被片と相對生し、後二本は後花被片と相對生す、而各側方の一本は側花被片と相對生す、而て花蕾に於ては直生なり、雌花には全く雄蕊を欠如す。花糸は長さ 1.5 mm、葯は長楕円体にして微凹頭、底着、長さ花糸に等し、二室より成る、葯隔は狭くして腹脊に腺を有す。花粉は四面体にして角隅は肥厚せり。子房は一ケ、上位、多分二枚の心皮を以て成るものなるべし、卵狀円錐体にして側扁せり、表面に粒狀突起密布す、横隔膜を以て二室となり、其中の一室にのみ一ケの胚珠を藏す。柱頭は二ケ花柱を欠く、薄片狀にして菱形を呈し、先端銳形、又は微凹頭、又は二凸頭、三凸頭等をなす、永存性なり、雌花の柱頭は稍短し。胚珠は短き珠柄を有し、斜上生、半倒生、二枚珠皮を有す。果實は両性花もののみ獨り成熟す、小堅果にして二枚翅を具ふ、翅は半円狀革質、各三腺を有す、縁邊部の腺は平行にして内方のものは疎に綱目を成す、其面には黒褐色の腺点あり、先端は全長の五分の一許直角に裂く、中果は倒西洋梨形、木質、表面に粒狀突起あり、内果は白色を呈す。種子は卵圓体、斜上生、外種皮は褐色にして少しく固く、内種皮は白色にして少しく肉質なり、胚乳を欠く、胚は直、幼根は微小；子葉は楕円体にして肥厚し、平行下垂す；幼芽は不分明なり。

喬木にして花後時に無葉となる、枝は初め稜角あり、髓を有す、枝皮は輝褐色を呈し無數の皮目を密布す。葉は互生にして落下す、奇羽狀複葉にして四又は八對の小葉を以て成り、短き葉柄を合して 40 cm の長さに達す、中軸は上面に細溝あり；小

葉は互生、無柄、披針形、疎に微鋸齒あり、稍革質にして上面光澤あり、両面には多少の腺点を有す；托葉は披針形、葉柄や花序と共に星狀腺毛及び曲れる微小毛を密生す。花序は枝の上方の葉及び苞狀に變形せる最上葉とも凡そ、六一八ケの葉腋より生ず、大複總狀花序にして横向又下向す、花序の各分枝は一の穗狀花序にして花の小群塊が交互に着生す；各花小群塊は三ケの無柄花を以て成り、一苞及び二の小苞を有す、中央の花は兩性花にして小苞を有せず、甚短小なる柄を有す、側花は雄花にして各一の小苞を具す。

單一種屬にして穗果樹 (*Rhoiptela chiliantha* DIELS & H-MAZT.) と稱し、支那貴州省、廣西省、東京に分布す

本科は果實の形態に於て榆樹科に類似し、材部の内部形態はムクノキ屬に類す、然し羽狀複葉を有し、又胚珠は下垂せず。一般の習性や毛被物は胡桃目に類するが、胡桃目は托葉を欠き、單性花序を有し、胚珠は直生で一室より成る子房底に附着するを以て大に差あり、蓋し一の獨立目 (*Rhoipteleales*) を成すものなり。

オケラ屬 (*Atractylodes* DC.) に就いて

北 村 四 郎

オケラは總苞直下に魚骨狀苞あつて、花色は白に近く、なんとなくカサカサしてゐて茶人の床にはこよなくふさわし草で根はイカリサウに似て太く節しくれ立つてこの形を見ただけでも病氣が治る様なたのもし草で、各々方の御庭に植えられんことを御一考をわすらし度いのである。今度雜報として取り立て申し上げるのも面わゆい次第であるが從來この植物は *Atractylis* 屬に入れられてあつたのがやはり LESSING, De CANDOLLE, 小泉博士の意見に従ひ *Atractylodes* DC. を用ひる考へとなつたので小生の所感を述べる。

オケラ屬の植物が植物分類學上最初に發表されたのは THUNBERG 氏が *Flora Japonica* (1874) p. 306 に *Atractylis ovata* と *Atractylis lancea* とを書いたのがそれで、中井博士 (1928) 小泉博士 (1930) に依れば二記は漢種で我が國栽培の植物に他ならぬのである。上記の如く Thunberg 氏はこれ等の植物を *Atractylis* L の屬に入れたのであるが、*Atractylis* L は *Atractylis cancellata* を *type* とし (cf. BRIQUET, Intern. Rules Bot. Nomencl. ed. III (1935) p. 139) 地中海地方を中心としカナリヤ島からアフガニスタンまであるものでこの屬自身が可成り變異に富むものである。ところがオケラは可成り離れてボツカリと日本と支那とに出るので東亞と地中海地方とは菊科では全く別な地帯に屬しそして連鎖なく兩地帯に出現することは植物地理上の智識は何かものが異なつてゐるのではないかといふ疑をいだかせる。